

《先週の説教・御言葉》

3/15 『救いを確かめよう』（ピリピ2：12～18）

長谷川 望牧師

- * 救いとは何か。宗教と呼ばれている団体は殆どの場合「救い」の教えを説いている。一般的な救いの意味は、試練や危険や苦難から逃れること。旧約聖書にはこの意味でもよく用いられている。しかし、聖書全体が「救いの書」といわれるのは、それが「罪からの救い」なのである。
- * 聖書が示す「救い」にはその時期に応じて3つの段階がある。最初の段階は「新生」と呼ばれ、イエスが救い主であることを信じ、十字架によって私の罪が赦されることを確信したとき。次が「聖化」で、信じて新生した者がこの地上の生涯を終えるまでの間、キリストに似た者として育てられ、成熟していく過程のこと。そして、「栄化」とも呼ばれる時。主イエスが再び来られて神の国が完成し、私たちのからだに朽ちない栄光のからだに変えられるとき。「**恐れおののいて自分の救いの達成に努めなさい。**」（ピリピ2：12）「救いの達成」とは、ピリピのクリスチャンたちが「栄化」に浴することができるよう信仰生活に励み、成熟するように努めなさい、という意味である。
- * 「**神はみこころのままに、あなたがたのうちに働いて志を立てさせ、事を行わせてくださるのです。**」救いを「達成する」とはいつても、自分の力で、頑張ることができるものではない。むしろ、「**恐れおののいて**」とあるように、神にすべてをゆだねる中で達成できるのである。神が人の心に働きかけて、従おうとする思いを起こさせ。神が望まれる行いができるようになる。私自身の献身のことを考えると、信仰的に全く未熟な私を献身という形で「救いの達成」に向けて一步踏み出せ、と神様が背中を押してくださった。私は敷かれたレールの上を走るだけでよかった。しかし、達成までは、「**すべてのことを、つぶやくず、疑わずに行いなさい。**」（2：13）というみことばに従っていきたいと思う。
- * そうすれば、「**彼らの間で世の光として輝くためです。**」（2：16）世の中で証をし、光として輝き、救われる人がますます増えて行くことに貢献ができる。パウロは殉教の危機にあるにもかかわらず、ピリピの信徒たちが、そのような信仰生活を送ってくれれば、一緒に喜びたい、と言う。私たちも同じ喜びにあずかりたい。